

いいかげんにして!!

1 主 題 自分で自身の権利を守ろう

2 主題・教材について

私たちは様々な権利を持っている。その権利を誰もが合理的と判断できる範囲において行使できることが望ましい。しかし、現実には、時として権利は対立する。権利と権利がぶつかったときに一方の権利が制限されることがある。そんな時、どうすればよいのだろうか。

日本においては、どこか権利を主張することがマイナスのイメージで捉えられる風潮がある。そこで、この教材では、権利が侵害されたときを想定し、自分で自身の権利を主張することは当然の行為であるとした上で、自分で自身の権利を守る適切な主張の在り方を身に付けさせたい。

なお、自分で自身の権利を守る術はライフスキルとして重要である。子どもたちが不当に扱われたり、つけこまれたり、自らの問題が無視されたままになったりしたとき、その問題を自力で解決するため、この術をしっかりと身に付けさせたい。

ところで、教員がいじめに対処するとき、しばしばこのスキルを重要視する傾向がある。しかし、いじめでは、加害者と被害者との間の力のアンバランスに注意することが重要である。自分で自身の権利を守るスキルはアンバランスが問題になっておらず、身体的・精神的・性的虐待が繰り返されたという履歴のない状況において、より効果的となることに留意しておきたい。

(関連領域：特別活動)

3 ねらい

- ・自身の権利を主張することは当然の行為として認識する。
- ・自身の権利を守るための適切な主張のあり方を身に付ける。

4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	マンガのストーリーを考えよう。		
	・グループごとに、マンガのストーリーを考え発表する。	・弁当を食べている3人の子どもの立場に立って考えるよう指示する。 ・3人の台詞を考えさせてもよい。	
展開	ストーリー〔例〕 ①弁当を広げていると、どこからかボールが飛んできた。 ②早く食べ終わった人たちがボール投げを始めたようだ。 ③ゆっくり弁当を食べたいので向こうへ行くように抗議している。		「2 こんなクラスにしたい」 参考 ワークシート
	「自身の権利を守る」ことについて考えよう。 ・3人が守りたい自身の権利を考える。 ・3コマ目で、権利を侵害された3人は、どうすれば適切に自身の権利を守ることができるかをグループで話し合う。 ・グループごとに考えたことを発表する。 ・各グループから出された意見をもとに、どんな方法が権利を守るために適切なのかを考え、発表する。 ・「自分で自身の権利を守る」ことについて意見を交換する。 ・なぜ、「自分で自身の権利を守る」方法	・3人の気持ちを考えさせる。 ・「2 こんなクラスにしたい」の赤いマシンを使って考えてもよい。 ・発表以外のグループにはボール投げをしていた人たちの立場に立って、どのように感じるを考えさせる。 ・〈自分で自分の権利を守る適切な行動あるいはスキルの手順〉を確認させるとよい。 ・権利を主張することは当然の行為として確認する。 ・現実に権利の主張ができているかを	

展 開	を学ぶのかについて意見を交換する。 • ロールプレイにより、いろいろな場面において「自分で自身の権利を守る」練習をする。	ふり返らせ、できていないとすればどのような理由によるのか、などについても考えさせたい。 • ペアやグループで活動させる。	ワークシート
ま と め	学習をふり返ろう。 • 学習をふり返って、どうすれば「自分で自身の権利を守る」ことができるのかを確認する。 • 日頃から対等な関係を築いておくことの大切さにも気づかせたい。		

《参考》

◆「自分で自身の権利を守る」適切な行動あるいはスキルの手順

- 1 自分で自身の権利を守る主張をするべき状況かどうかを見極める。
自分自身の権利を守る主張をするのに適した状況には、からかわれたり、不当な扱いをされたりしている状況を含みます。
- 2 落ち着いた状態を保ち、感じのよい、あるいはニュートラルな声の調子を使って話すように心掛ける。
叫んだり、だれかを傷つけるようなことを言ったりするのは避けます。
- 3 あなたの立場や望んでいることを説明する。
あいまいな発言や煮え切らない言い方は避けます。はっきりと断定的に言うこと。
- 4 あなた自身の権利を守る正当な根拠を伝える。
理由には、不当な扱い、ひどいサービス、言い争いやけんかを避けようとしたことが含まれるでしょう。
- 5 聞いてくれる人に対して、感謝の気持ちを表す。
相手のことを尊重して自分の気持ちを伝えましょう。

◆「自分で自身の権利を守る」方法を知っていることが、なぜ大切なのか

- 1 自信を育てられるから。
自信を養い、ほかの人の権利も守りやすくします。
- 2 ほかに人に利用されないようになるから。
ほかの人の言いなりになりません。
- 3 相手と対等な立場であり、成熟していることを示せるから。
あなた自身が、きちんと意見を主張できる人であるということを示せます。
- 4 より信頼を得られるから。
ほかの人たちはあなたのことを、問題に対処する方法や責任のもち方を知っている人だとみなすでしょう。

(参考資料：明石書店 『学校や家庭で教えるソーシャルスキル実践トレーニングバイブル』
ー子どもの行動を変えるための指導プログラムー)

自分で自身の権利を守りましょう

1. お年玉の半分は貯金、半分は自分のおこづかいという約束で預けておいたのに、お母さんは、あなたのお年玉を全額預かったままです。約束を忘れているのかもしれないお母さんに、あなたは何と言いますか。
2. あなたは大切にしていたCDを、「すぐに返す」という条件で、友だちに貸しました。しかし、いつまでたってもCDは返ってきません。あなたは、友だちに何と言いますか。
3. 「公園内では野球禁止」と書かれているにもかかわらず、野球をしている人たちがいます。そのせいで、あなたたちは公園で遊べません。そんな時、野球をしている人たちに、公園で遊んでもよいあなたの権利をどのように主張しますか。
4. 食事に入った飲食店で注文しました。しばらく待っているうちに、後からオーダーしたお客さんには料理が出てくるものの、あなたのところに料理がくる気配がありません。あなたは、お店の人に何と言いますか。
5. 購入したい本の発売日となり、1時間ほど並んで待っていると、あなたの前に勝手に割り込んできて、平気で並び出した人がいました。あなたは一人で来ています。周りには知っている人もいません。割り込んできた人に対し、あなたは、どのようにしてその行為をやめさせますか。

＜自分で自分の権利を守る適切な行動あるいはスキルの手順＞

1. 自分で自身の権利を守る主張をするべき状況かどうかを見きわめよう。
自分自身の権利を守る主張をするのに適した状況には、からかわれたり、不当な扱いをされたりしている状況を含みます。
2. 落ち着いた状態を保ち、感じのよい、あるいは中立的な（感情をあらわにしない）声の調子を使おう。
叫んだり、だれかを傷つけるようなことを言ったりするのは避けます。
3. あなたの立場や望んでいることを説明しよう。
あいまいな発言や煮え切らない言い方は避けます。はっきりと断定的に言うことも大切です。
4. あなた自身の権利を守る正当な根拠を伝えよう。
理由には、不当な扱い、ひどいサービス、言い争いやけんかを避けようとしたことが含まれるでしょう。
5. 聞いてくれる人に、感謝の気持ちを表そう。
相手のことを尊重して自分の気持ちを伝えましょう。